

---

# 明日への意思

膳条 司

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

明日への意思

### 【Nコード】

N0470B

### 【作者名】

臙条 司

### 【あらすじ】

突然の病に侵された少女の、とある一夜のお話。あなただったらこんな時、何を思いますか？

**（前書き）**

以前、思い付きでパーっと書いたモノです。  
大したものでもないのに、あまり期待しないで下さい。

7月12日 午後 11時 47分

わたしは大好きな読書を終えて、部屋の明かりを消した。

この病院は都市部から大きく離れているせいか、深夜ともなれば薄気味悪いくらいの静寂に包まれる。

病院が気味悪いのは、しょうがないかも、だけど。

改めてシンと静まり返った夜の闇を見渡してみる。

“静寂”と呼ぶには静か過ぎるこの静けさは、耳が痛いような気がする程に五月蠅い。

本当に、静かだな……

わたしがこの病院に来たのは、五日程前。

その日のわたしは、朝から少し熱っぽかったと思う。

でも、ただの風邪だろう、って甘く見ていた。

薬を飲んで学校へ行ったのだけれど、体育の時間に急に気持ちが悪くなって、そのままわたしは意識を失ってしまった。

その後の事はよく覚えていない。

目を覚ました時には、この病院のベッドの上で横になっていた。

お父さんの話では、救急車を呼んだりして大変だったらしい。

病院関係者だった父はその立場を利用して、人見知りの激しいわたしに個室まで用意してくれた。

頼りになる父で、良かったとは思っけれど、それって“職権乱用”ってやつじゃないかな？

ちよっぴり、不安。

お母さんの話では、わたしが倒れた事を聞いた時、パニックになっ  
てしまったらしい。

娘のわたしがこんな状態なのに、自分までお医者さんに鎮静剤を  
打ってもらうことになって恥ずかしい、なんて言っていた。

自分の母親が、ちよっぴりかわいくなって思ったのは、これが初  
めてかもしれない。

これは、新発見だ。

そんな事を考えながら、窓の外に浮かぶ月を眺めていた。

青さすら感じさせるような夜空、その遙か上にある、真ん丸な  
お月様。

都心のビル郡が、その月に向かって伸びている。

この病院の窓は、どれもが秀逸な風景画みたいだ。

わたしはこの絵に、『月までとどけ』と名付けよう、と思った。

大丈夫…… わたしは、明日には……

その時だ。

開けておいた窓の隙間から、一匹の蛍が舞い込んできたのは。

こんな時期に、しかもこんな時間に。珍しいな……

そのこはわたしのところまでやってくると、ベッドの端に止まっ  
て何かを訴えるように、淡い緑の明滅を繰り返した。

うん、きつと、このこもわたしを励ましてくれているのだろう。

こんな病気に負けるな、って……。 もっと、生きるんだ、って……  
…。

大丈夫…… 明日の、わたしは……

そう、わたしは病気なんだ。

病名は何だか長ったらしくて、舌を噛みそうなものだったと思う

けど、忘れてしまった。

覚えていることは、それがとても深刻なものだった、ということ。そして、できるだけ早く手術をしなければならぬ、ということ。でもね、その手術が明日あるんだよ。

そうすれば、きつとわたしは良くなる。また、いつも通りの日々が送れるようになる。

「だから、心配しないで、ね？」

そうわたしが言っていると、蛍は再び舞い上がり、部屋の中を飛び回り始めた。

大丈夫、大丈夫…… わたしはきつと、大丈夫。

何度目かの呟きを心の中で漏らす。

父が、母が、先生が、友達が、何度もかけてくれた、言葉。

蛍の励ましと、この言葉のおかげで、安心してしまったのだろうか？

なんだか、とても眠くなってきた……

きょう、もう、ねむう……

そすれ、わたし……きと……

7月13日 午前 0時 11分

部屋を舞っていた蛍は、緑の明滅を繰り返しながら窓を出て、ふわりふわりと、月を目指して空へと昇っていった。

（後書き）

あとがき

お付き合い下さり、ありがとうございました。  
いかがでしたでしょうか？

この少女、その後どうなったのでしょうか……？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0470b/>

---

明日への意思

2011年1月8日21時40分発行